

JASMA 会報

2017年1月発行（季刊）一般社団法人日本縫製機械工業会

CONTENTS

| | |
|----------------------------------|---|
| 新年ご挨拶 | 1 |
| 年頭所感 | 2 |
| 新年賀詞交歓会開催される | 2 |
| JASMAセミナーを開催 | 3 |
| 第37回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定 | 4 |
| 生産性向上設備投資促進税制の証明書発行締切迫る | 4 |
| 「縫製機械整備作業」技能検定試験の存続が決定 | 4 |

新年ご挨拶



一般社団法人日本縫製機械工業会
会長 眞壁 八郎

明けましておめでとうございます。皆様には希望に満ちた新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

昨年は、テロの脅威、難民や移民問題を背景にして、英国の国民投票によるEU離脱派の勝利、米国大統領選のトランプ氏の勝利など大きなニュースが世界中を飛び回りました。

本年も、米国トランプ新政権の政策、フランス、ドイツの総選挙が大変気になるところです。

経済の分野では、米国金融政策の動向、中国を始めとするアジア新興国等経済の先行き、ユーロ圏の政策に関する不確実性など、注視する必要があります。

こうした中、私達縫製機械業界を取り巻く環境についても不透明感を否めません。

中国のアパレル生産減少を受けて発展して来たベトナム、カンボジア、ミャンマーなど東南アジア、南アジアのアパレル産業の市場動向には十分注意を払うべきだと考えます。

しかし、今年は「酉(とり)年」です。「とり」は、「とりこむ」といわれ、商売などには縁起の良い干支といわれております。少子高齢化社会を目前にして、女性の活躍を「とりこむ」ことと、またIoT、ロボット、AIの活用などを念頭に、生産性や信頼性の向上を図り、革新的な新製品の開発に取り組むことが重要だと考えます。

以下、当工業会の主な取り組みについてふれたいと思います。

一つはJIAM 2016 OSAKA「国際アパレル機器&繊維産業見本市」です。

昨年(平成28年)4月6日～9日、インテックス大阪において「革新的ソリューションと高度加工技術」をテーマに開催し、成功裏に終了することができました。これは、日本の縫製機械業界における皆様の積極的な参加に加えて、アパレル・繊維業界そして関係官公庁の皆様方からのご支援、ご協力によるものと感謝申し上げます。本見本市は、情報技術と革新技術を駆使した新製品や最新技術を世

界に向けて情報発信する場となり、その後の製品販売につながったと多くの来場者様からお言葉を頂戴いたしました。

今回のJIAM2020は、2020年(平成32年)5月20日(水)から23日(土)までインテックス大阪で開催することとし、実行委員長は美馬副会長(ペガサスミシン製造(株))に決定しました。引き続き関係機関等の協力の下で進めてまいります。

また、本年は、国内では3月大阪、9月東京、海外では5月ドイツ・フランクフルト、9月中国・上海と縫製機械関連の展示会が多数予定されております。フランクフルトでは、今回初めて当工業会は単独出展されない企業様と共同でジャパンパビリオンを設け、日本製品の優位性をアピールしたいと思っております。まだ開催まで時間がありますので、出展をご検討の際には、事務局までご一報下さい。

二つ目は、家庭用ミシンを使った『ものづくり』の普及促進に関することです。この活動の中心となる本年の第37回「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」では、小学生の対象学年を従来の5・6年生に加え4年生を対象とした結果、応募学校数632校(前年592校)、作品数4,478点(前年4,283点)とも前年を上回ることが出来ました。応募作品は、いずれも素晴らしい出来栄の力作やアイデア溢れる個性的な作品です。皆様のご協力に深く感謝いたします。

表彰式は、来る3月4日(土)に開催します。当日は、ミ(3)とシ(4)の語呂を合わせた「ミシンの日」と重なり華やかなものとなることを期待しております。私共としては、今後も本コンクールが、我が国の『ものづくり』文化のすそ野拡大、並びに将来のアパレル・ファッション・繊維産業を担う人材の育成に連なることを念願しております。

最後になりますが、私共としては、本年も、会員企業間のコミュニケーションの更なる充実を図りつつ、経済産業省のご指導のもと、関係諸団体とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいりたい所存です。

本年も皆様の一層のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感

経済産業省製造産業局
産業機械課長 片岡 隆一



平成29年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

安倍政権発足以来、4年間にわたるアベノミクスにより日本経済は着実な回復を遂げております。回り始めた経済の好循環を持続的な経済成長に結びつけ、「戦後最大の名目

GDP600兆円」の実現を目指すべく、政府は昨年6月に、「日本再興戦略2016」を決定いたしました。本戦略では、①新たな「有望成長市場」の戦略的創出、②人口減少に伴う供給制約や人手不足を克服する「生産性革命」、③新たな産業構造を支える「人材強化」の3つの課題に向けて、更なる改革に取り組んでいくことを宣言しております。

上記課題へ対応し、日本経済の未来を切り開く重要な鍵となるのが、「第4次産業革命」と呼ばれる革新的技術の創出とその活用です。ロボット、IoT、人工知能、ビッグデータなどの革新的技術を活用することにより、様々な分野で新しいビジネスモデルが登場し、これまで想像もつかなかったような商品やサービスが生み出されます。「第4次産業革命」においては、こうした新たな価値の提供が拡大することに加え、人手不足や環境といった社会的課題への対応も進展することで、潜在需要が飛躍的に開花します。さらに、革新的技術を最大限に活用することにより、人口減少社会での供給制約を克服する「生産性革命」の実現が期待されます。

我が国経済を支える製造業においても、多くの企業、とりわけ中堅・中小企業が、少子高齢化に伴う働き手不足や、投資の

伸び悩み等の課題に直面しております。「第4次産業革命」によりそれら課題に対応し、技術革新による果実を我が国全体に拡げていくため、経済産業省としても、現場のニーズを把握し、企業におけるITやロボット導入の動きを最大限にサポートすべく施策を実施しております。例えば、ロボット分野では、汎用的な用途に活用できるプラットフォームロボットの開発や、企業に働きかけ最適な生産ラインの設計及びロボット導入を提案するロボットシステムインテグレータの育成等の事業により、中堅・中小企業を含むあらゆる企業が、より容易にロボットを導入できるようにしていきます。

産業機械産業は日本の製造産業の根幹を支えるものであり、我が国経済及び国民生活を広く支えております。まさに我が国産業の重要な土台とも言うべき産業機械産業に様々な形で関与され、それぞれの業種、産業における最新の技術動向を持ち寄り、情報共有やさらなる技術革新に向けた議論をなさっているという点で、皆様はユニークかつ大変貴重な存在であると実感しております。「第4次産業革命」の最中、既存の組織や伝統的な業種の枠を越えたビジネスモデルの創出が目指される場所、皆様の御活動の中から新たなアイデアやイノベーションが産み出されることを期待しております。

産業機械課としても、これからも皆様の生の声を聞き、それを政策に反映させていきたいと考えておりますので、ご提案やお困り事がございましたら、是非とも気軽にお声を掛けてください。

最後になりましたが、本年が皆様方にとってさらなる飛躍の年となりますように祈念いたしまして、新年の挨拶と代えさせていただきます。

新年賀詞交歓会開催される

当工業会の平成29年新年賀詞交歓会が、1月13日（金）午後1時30分から日本工業倶楽部3階大ホールにおいて開催されました。出席者は、経済産業省をはじめ各関係団体、報道関係、当工業会関係者を含め昨年と同規模の118名となり盛大に執り行われました。開会にあたり、当工業会の眞壁会長から次の挨拶がありました。

昨年のJIAM2016は成功裏に終わり、会員をはじめ関係先のご支援、ご協力に心より感謝したい。次回のJIAM2020は、2020年5月20日（水）から23日（土）までインテックス大阪で開催することとし、実行委員長は美馬副会長（ベガサスミシン製

造機）に決定した。引き続き関係機関等の協力の下で進めていきたい。第37回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」は、小学校の対象学年を従来の5・6年生に、新たに4年生を加えた結果、応募学校数632校、作品数4,478点ともに前年を上回ることが出来、来る3月4日（土）に入選作品の表彰式を予定している。本年も会員企業間のコミュニケーションの更なる充実を図り、関係諸機関とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいりたい。

続いて、ご来賓として出席された経済産業省製造産業局産業機械課 片岡課長殿から、日本経済の未来を切り開く重要

な鍵となるのが、ロボット、IoT、人口知能、ビッグデータなどの革新的技術を創出し、それを活用させていく「第4次産業革命」である。新たな価値の提供拡大が人手不足、環境等の社会的課題への対応も進展し潜在的需要が飛躍的に開花され、革新的技術の活用により、人口減少社会での供給制約を克服する「生産性革命」の実現が期待されている。縫製機械業界におかれては引き続き最新鋭機器を開発し、内外展示会で存在感をPRさせてほしいとの挨拶がありました。

その後、当工業会の近藤副会長（前JIAM2016実行委員長）から美馬副会長（JIAM2020実行委員長）へ、実行委員長の禰りレーが行われ、美馬副会長からハード及びソフトの更なる技術開発が必要であるとともに、これを支える人材を育成し日本のものづくりを世界へ発信させていきたい旨の挨拶後、乾杯発声が行われ和やかな雰囲気での歓談が行われました。最後に清原副会長から、JIAM2020は大阪開催が決まり、これ

から美馬実行委員長の下で会員の支援、協力をいただき進めるとともに、当工業会の事業活動を確実に進めていきたい旨挨拶された後、中締めが行われ盛況のうちに終了しました。



眞壁 八郎 会長



片岡 隆一 産業機械課長



美馬 成望 副会長



清原 晃 副会長



JASMAセミナーを開催

2016年（平成28年）12月2日（金）、午後2時30分より航空会館（東京都港区）におきまして「JASMAセミナー」を開催しました。講師はロボット革命イニシアティブ協議会（RRI）の事務局長 久保智彰氏で、「IoT等の活用がなぜ今必要か?」をテーマに講演が行われました。「IoT（Internet of Things=モノのインターネット）による製造ビジネス変革」がデジタル化、ネットワーク化を推進させ、ものづくりの全体最適性が進み、企業間の関わり合い方、ビジネスモデルが変わるとしており、企業における具体的な取組事例の説明が行われました。参加者は眞壁会長、廣瀬副会長をはじめ会員関係者、プレス、事務局を含め23名でした。

次回は2017年（平成29年）2月24日（金）を予定していますので、ご期待下さい。



第37回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第37回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数632校（前年592校）、応募点数4,478点（前年4,283点）と昨年を上回りました。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり選ばれました。

入選作品表彰式は、2017年（平成29年）3月4日（土）、午後1時30分より日本工業倶楽部（東京都千代田区丸の内）で執り行います。なお、入選作品等の詳細につきましては、後日、会員及び報道機関向けにお知らせします。

1. 作品賞

- 最優秀賞 5点
- アイデア賞 3点
- 努力賞 192点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点
- リクチュール賞 1点
- 優秀賞 26点
- 佳作賞 37点

2. ホームソーイング振興最優秀校賞

小学校、中学校、高等学校 各1校

生産性向上設備投資促進税制の証明書発行締切迫る

当工業会が発行している「縫製機械等」の生産性向上設備投資促進税制の証明書発行締切は、本年（2017年）3月末までとなりました。昨年末から申請件数が多くなり、締切間近になると混み合うことが予想されますので、お早めに申請下さい。

本税制は、縫製機械等の設備ユーザーが指定要件の基準を満たした先端設備を取得した場合、税務申告の際に

税制措置が受けられる制度です。

お問い合わせ等は下記の当工業会事務局までご連絡下さい。また、以下の当工業会ホームページでもご覧いただけます。

URL:http://www.jasma.or.jp/seisansei_setubitoushi.html

「縫製機械整備作業」技能検定試験の存続が決定

厚生労働省所管の国家検定制度の「縫製機械整備作業」技能検定試験は、受検者の減少により平成24年度から隔年実施になりましたが、引き続き受検者の減少傾向が続き、同省の「技能検定職種の統廃合等に関する検討会」の対象業種となり検討が行われました。平成28年度は後期に試験が行われることもあり、当業界及び関係業界が協力して同試験制度のPRや受検者増を図る取り組みを行

い、本年度の受検者数は前回の2倍となる160名以上に増やすことが出来、一定の基準を満たしたため、本検定試験は隔年実施で存続することが決定しました。

今後も時代のニーズに合った「縫製機械整備作業」検定試験を実現させ、本検定試験を広くPRしていきたいと思っております。

編集後記

1月20日にトランプ米大統領が就任しました。トランプ氏の経済・外交・金融政策など、不透明なところが多く、今年は波乱の年になりそうです。また、インダストリー4.0やIoT、AIなど技術革新の大きな変化もあり、ものづくり企業は、これらの大きな変化にしっかり対応できなければ生き残っていきません。「変化に対応できるものだけが生き残れる」の言葉通り、環境の変化に前倒しで対応できるよう、しっかり準備をしていきたいと感じています。（S.M.）

JASMA 会報

Vol.13 No.4 2017年1月31日発行

一般社団法人日本縫製機械工業会
発行責任者：湯原 孝志

〒105-0004
東京都港区新橋5-25-3 第2一松ビル2階
TEL. 03-6435-8190 FAX. 03-6435-8192

URL <http://jasma.or.jp>
Eメール info@jasma.or.jp

本JASMA会報は、当工業会ホームページに掲載しております。